

- I. 日時: 平成30年9月11日(火) 18:30~20:30
II. 場所: 公益社団法人 私立大学情報教育協会(Glexa)によるテレビ会議
II. 出席者: 片岡座長(G)、神原委員、原島委員、中山委員(G)、小原委員(G)、二瓶委員(G)
事務局: 井端事務局長、森下 ※(G)はGlexaでの参加

III. 資料

- 資料① ICT活用による分野横断型授業設計案(30年9月11日)
資料② ICT活用による分野横断型授業資料(学生用ガイド)
資料② ICT活用による分野横断型授業資料(ファシリテータ用ガイド)
資料③ 医療系フォーラム実験授業参加学生の状況
平成30年度第4回委員会議事概要

IV. 議事概要

1. 実験授業詳細設計(案)について

片岡座長から、前回の検討を踏まえ、修正した「実験授業詳細設計案(30年8月27日版)から修正した「一般目標」、「学生が身につける能力(コンピテンシー)」、「評価」について以下のように修正したことが説明された。

4. 一般目標

健康長寿社会で活躍できる人材となるために、分野横断して社会的な課題に取組み、多分野の学生とともに主体的な学びの能力を身につける。

5. 学生が身につける能力(コンピテンシー)

- 1) 与えられた情報を鵜呑みにせず、多面的な視点で問題を発見できる。
- 2) 社会的な課題解決のために、エビデンスの高い適切な情報を活用できる。
- 3) 多様な知見・価値観と独自の視点を活かした合理的な判断に基づき、問題解決策を立案できる。
- 4) 問題解決をするために論理的に思考し、表現できる。
- 5) 自分の意見をわかりやすく他者に伝え、他者の意見を傾聴し、積極的で効果的なグループ討議ができる。
- 6) 適切な自己評価とさらに改善する方法を模索できる。

6. 評価

上記の1)~6)のコンピテンシーについて以下の評価を行う。

- 1) 問題発見能力 1)については、多分野の視点がどの程度反映されたかを最終プロダクト「20年後の自職種の未来像」について、ルーブリック評価を行う(表1)。
- 2) コミュニケーション能力 5)については、ネット授業1~3において、グループ内学生とファシリテーターによるルーブリック評価とネット授業4(全体説明会)における他のグループ学生と教員によるルーブリック評価を行う(表2)。
- 3) 根拠になる情報活用 2)については最終提出物「20年後の自職種の未来像」の参考文献について、ルーブリック評価を行う(表1)。
- 4) 問題解決能力 3)4)については自職種の将来像の最終提出物「20年後の自職種の未来像」について、ルーブリック評価を行う(表1)。
- 5) ポートフォリオによる振り返り、自己評価能力 6) について、ルーブリック評価を行う(表2)。

合わせて第1段階、第2段階の資料も整理し修正したことが資料で説明された。

2. 実験授業の事前準備について

実験授業の内容、事前準備について、Glexaの環境を用いて片岡座長から説明が行われた。

(1) 事前準備の状況確認

学修教材、ICT環境のチェック、学生の確定と授業に向けた事前準備について

- ① ICT環境のチェックとICTオリエンテーション(授業実施2週間前には完了)
- ② 参加確定学生への機能チェックとネット上のインタビュー(二瓶先生にお願いする)
- ③ 参加学生による機能チェック、自己紹介を兼ねたテスト通話、掲示板機能を活用したプロブレムマップの作成練習等

- ④ グループのテストネット授業を実施し、例題についてグーグルドキュメントを用いてグループで共有して、ネット授業で使うソフトや機能の練習する。(オリエンテーションで説明・実施)

既に二瓶先生が昭和大学の学生と実施しており、約 30 分程度の事前準備で問題なく行なえていること、第 1 グループの自己紹介を兼ねたテスト通話、事前練習 1 回目は 9 月 18 日、2 回目は 9 月 24 日で予定していることが報告された。

(2) 動画教材の確認

- ① 超高齢化に伴うニーズの変化を意識させるビデオ「人生 100 歳時代・カナダの心臓病学会ビデオ、医療経済（三浦委員）のビデオを確認した。

(3) 2018 年度 ICT 活用による分野横断型授業学生用ガイド、ファシリテータガイドについて Glexa 掲載資料で以下の内容を確認した。

2018 年度 ICT 活用による分野横断型授業学生用ガイドの内容 (約 50 ページ)

ICT 活用による分野横断型授業のスケジュールと参加メンバー

0. 事前準備

0-1. ICT 学修支援システム (グレクサ) の使い方

0-2. ネットオリエンテーション

1. 目的

2. 本事業の一般目標

3. 方法

4. 授業の概要

5. ICT 活用による分野横断型授業の進め方

6. 学生が身につける能力 (コンピテンシー)

7. 評価

8. 提出物、提出期限

9. ネット授業における役割分担

10. 提出物の書き方

11. ICT 活用による分野横断型授業の流れ

12. アクティブラーニングとクリティカルシンキングについて

13. e-ポートフォリオについて

授業内容

1. 超高齢社会に伴うニーズの変化を知る

ネット授業 1

2. 健康長寿を送るためにどうするか

自己主導型学修 1

ネット授業 2

3. 健康長寿社会を実現するために自職種はどのようにすべきか

自己主導型学修

ネット授業 3

4. 健康長寿社会を実現するために 20 年後の自職種の未来像と職種間の関連性を考える

自己主導型学修 3

ネット授業 4

自己主導型学修 4

5. e-ポートフォリオを用いた省察を行う

(4) プロブレムマップ作成機能のデモ

グーグルドキュメントを用いてグループで共有作業するイメージの説明、ネット授業で使うソフトや機能の操作について確認した。

- (5) 参加学生について
医学、薬学、看護学の参加学生について、今週中に確認することにした。

3. 主な意見・確認事項

- (1) ファシリテータの関与、学生の議論・成果物への関与について
参加学生に十分な準備期間が無く、分野（個人）の課題と他分野との関連、社会との問題を結びつけて考えられるか。期待した通りにプログラムが進むか。期待通りのアウトプットが出せるか。等の意見があり、ファシリテータの関与度合いをどこまで行うかについては以下のようにした。
※ 初めての試みで予測がつかないが「無理に抑えたり誘導したりしない」、「学生の自主性と成り行きを見守る」ことにし、「全く議論に参加しない学生がいた場合」、「議論の方向が全く異なる方向に行った場合」などにもファシリテータは関与・指導するようにした。
- (2) 事前準備について
参加学生に十分な準備期間が無く、ICT の操作、ICT 環境、授業の進め方の理解度等にバラツキがある中でスタートすることに問題がないかの意見があったが以下のようにした。
※ ICT 学修支援システム「グレкса」の使い方については、「0-1.事前準備」を作成し、細かなところまで分かりやすいガイドをネット授業のテンプレートに掲載する。
※ 参加決定学生には個別に約 30 分程度、ICT 学修支援システム「グレкса」を使って二瓶委員が個別に事前面談し、ICT 環境・操作に問題ないか等を確認するようにしている。今まで個別面談した学生（昭和大学等）では問題なく進んでいる。
※ その上で、参加学生 6 名での自己紹介を兼ねたテスト通話、事前練習を 2 回行うことにし、1 回目は 9 月 18 日、2 回目は 9 月 24 日に実施する。
※ 事前練習には、第 1 グループ学生 6 名、ファシリテータ小原先生、コーディネーター二瓶先生、システムのサポート Version2 大西様が入って行うことにした。
- (3) 実験授業の検討について
第 1 グループの実験授業の進捗状況の確認と振り返り、第 2 グループの進め方を検討するため 10 月 11 日 17 : 30 から Glexa テレビ会議を行うことにした。
- (4) 実験授業参加者の確定について
医学、看護学の学生については二瓶委員、中山委員、高松委員に今週中に確認し確定することにした。

4. 次回委員会

次回は 10 月 11 日 17 : 30 から Glexa で開催する。